

大学・地域共創プラットフォーム香川
令和5年度第2回進学・教育部会 議事概要

日 時：令和5年9月22日（金）10:00～12:30

場 所：香川大学 本部棟 4F 大会議室

出席者：別紙（部会資料「R5 第2回進学・教育部会出席者名簿」）のとおり

第1部 研修会

進学・教育部会の令和5年度事業計画の一環として、大学等の地域における教育改革や教育改善につなげる中長期グランドデザインを検討するため、SD 研修として外部講師を招聘しての研修会を開催した。

講 師：小林 浩 氏 （リクルート進学総研 所長）

演 題：「地方大学の新たな選択肢～これからの魅力ある地方大学とは～」

参加者：27名

第2部 議題の審議及び報告

議題1 高等教育のグランドデザインに係る取組について

※第1部の研修会の内容を踏まえ、講師を交えて、各校取組状況などの情報交換や今後の取組について協議した。なお、「地域における高等教育の中長期グランドデザイン」については、今後も継続して協議を行うこととした。

（幹事・徳島文理大学 中筋委員）

高校生数が減少していること、近年の自県大学進学率が17%台から上がらないことなど、危機感を持ちながら入学者数の確保に努めている。情報を基盤とした社会において必要となる知識・技能を文理横断的に養成するため、令和5年度は、1年生の必修科目「文理学」において、「数理・データサイエンス・AI入門」と題し、電子情報工学科や総合政策学科などの教員が担当して、7コマの講義を実施している。講義内容は、「数理・データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか」「数理・データサイエンス・AIをどのように学ぶのか」「データサイエンス力を身につけよう」「学習するコンピュータとその応用」「デジタル社会の基礎知識」「AI技術とデータ解析の基礎知識」「データ・AI活用で必要な統計学の基礎」となっている。

（香川大学・今井田委員）

リカレント教育の充実として、令和4年度に再編した地域人材共創センターが中心となり幅広い年齢層を対象とした生涯教育を進めている。初等中等教育との接続として、令和4年度から全額共通教育において高等学校から大学への学びの転換を丁寧にサポートする体制を強化した。新たに開設した科目で学問や研究について大学生らしい学びの習慣となるよう学生に伝えることを目指している。分野横断教育、分野融合教育として、令和4年度から大学院の文系である経済学研究科、法学研究科、教育学研究科と工学研究科を融合して、創発科学研究科を開設した。令和6年度からは博士後期課程を設置することとなり、博士前期課程と後期課程で一貫した分野横断教育を行おうとしている。数理・データサイエンス・AI教育では、四国ブロック代表校となり、四国の拠点校として取組を進めている。「危機管理学×数理・データサイエンス・AI教育」を本学だけでなく、香川県内及び四

国内で展開しようとしている。大学間連携による教育プログラムでは、四国 5 国立大学が四国地域大学ネットワーク機構を設立し、「大学等連携推進法人」認定を受けて、法人全体で教員養成課程を作っており、いい形でスタートできている。

(香川高等専門学校・吉永委員)

中期計画では内部質保証を進めるという点で、ポートフォリオ教育、教学マネジメントの実施などに取り組んでいる。本学のブランド力をどう高めていくのか 何を看板として掲げるのかが課題である。そういったことが、香川に学生が残らないことと結びついているのではないかな。

(香川短期大学・勘原委員)

高校生数が減少していることを念頭に、学科での質保証に取り組まなければならない。子ども学科では、新たな取組として「高校生おもちや甲子園」を立ち上げ、全国から 100 件の応募があった。これは、子ども学科が常に家庭科教員を訪問し連携が取れていること、高校としても家庭科での学びを発表する場ができたことが背景にある。今後さらに連携強化が必要である。食物栄養専攻では、県内の小学校から始まった「弁当の日」を発端として、「高校生お弁当の日甲子園」に取り組んできた。毎年テーマを決めて開催しており、今年度は 150 件の応募があった。高校の家庭科の先生との連携がうまく機能していることが成果となって表れている。経営情報科では、デザインアートコースが常に高校の美術の先生を訪問して信頼関係を作っており、デザイン志向をもった高校生が本学でいろいろな分野を学ぶことが強みになっている。こうした各学科の強みが上手く県内の高校に伝わっているが、地元だけに拘るのではなく中四国・九州地域にも広げていきたい。

(高松大学・高松短期大学・平畑委員)

データサイエンス関係の授業は、これまで経営学部で開講していたが、教育系の発達科学部や短期大学にも共通科目として広げている。入学したすべての学生に数理データサイエンスについて学ばせ、知識を修得して卒業させるという方針で取り組んでいる。大学・短大ともブランド力をどのようにつけるのかに苦慮している。短大は学科名や教育内容も変更して対応している。

(四国学院大学・山田委員)

20 のメジャー（主専攻領域）と 4 つのマイナー（副専攻領域）を導入しており、人文科学や社会科学、自然科学を横断的に学べる体制を取っている。すべての学生は 2 年次よりメジャー・マイナーを選択するので、入学時の学部から変わることもある。3 年前に科学系のマイナー（副専攻領域）を導入したので、文理融合に近い学びができており、また演劇のメジャー・マイナーも加えることにより、STEAM 教育も視野に入れることができる。西讃地域にある唯一の四年制大学として、また香川県が四国の他 3 県の地元残留率が約半分であることも考慮して、グランドデザインに対応しつつ、地元の高校生に残ってもらえるような教育に力を入れたい。

(香川県立保健医療大学・平川委員)

受験者数減少で危機感を持っている。看護師、臨床検査技師及び高度専門職業人となるための教育を大学及び大学院で行うとともに、リカレント教育として専門職向けの講習会や実技に関する研修会を開催している。小・中学生時から保健医療に興味を持ってもらうため、県内の医療系 3 大学と連携しての「中学生・高校生のサイエンスキャンプ」や本学

独自の小学生とその保護者を対象とした「ライフサイエンス教室」を開催している。今後はインナーコミュニケーションの活性化に向けて危機意識を持って取り組みたい。

(講師助言)

データサイエンスは各大学等で必修として、またこれからのリテラシーとして取り組んでいる。県内企業と連携してプラットフォームで認定制度を作って取り組んでは如何か。

また、「香川学」などをプラットフォームで開設して、企業から講師を派遣してもらえば、企業側からは学生の資質能力を見てもらい、学生側からは地元の魅力などを共有できる。

リカレント教育では、企業から人を送ってもらいリスキリングや人材再配置など、人をデジタル人材に変えていくようなことも考えられる。

大学だけでなく、地域や産業界と一緒に取り組むことが魅力づくりになるのではないだろうか。

その他事項

※議事を円滑に進めるため、議題2の審議の前に「その他事項」について幹事から報告があった。

1 令和5年度運営委員会・運営委員会への報告事項について

(1) 令和4年度の事業報告

※「進学・教育部会 令和4年度事業報告」(資料1)について、運営委員会に報告し審議されている旨、幹事から報告があった。

(2) 令和5年度の事業実施状況

※「進学・教育部会 令和5年度事業実施状況」(資料2)について、運営委員会に報告した旨、幹事から報告があった。第1回部会で承認された事業計画に基づいての取組状況を7月に取りまとめ、その後更新したものを運営委員会に報告した。

各取組の担当者はワーキンググループの責任者と連携して取組を進めるとともに、責任者が年度末までに取りまとめることを確認した。

(3) 私立大学等改革総合支援事業への対応

※「私立大学等改革総合支援事業」については、令和5年度第1回総会において、大学・地域共創プラットフォーム香川を事業の申請母体とすること及び「旧大学コンソーシアム香川」の中長期計画(計画期間:2019~2023年)の暫定的な使用について承認されている。その他必要な対応として、事業の評価体制について、事業に関係する部会が作成した評価を3部会の部会長が3部会合同連絡会において承認することを令和5年度第1回運営委員会において審議されている旨、幹事から報告があった。(資料3)

※上記(1)、(3)については、第1回運営委員会で承認されたことが、文書(9月27日付5地第21号)にて報告された。

2 その他

特になし

議題2 ワーキンググループ提案議題について

(1) 共同研究に係るシーズの公開・マッチング等に係る各校の対応

※「共同研究に係るシーズの公開・マッチング等に係る各校の対応」について、資料4に基づ

き協議した。今後も、プラットフォームにおける共同研究に繋がるように適切に対応することとした。

(香川大学・富永産学連携・知的財産センター長)

マッチングの確立を上げるため、地元金融機関と連携した取組を行っている。産学官連携に適した新しいシーズの情報を A4 用紙 1 枚程にまとめ、金融機関から顧客である企業等に情報提供してもらうことで、ニーズを拾い上げて、シーズとのマッチングを図っている。

(幹事・徳島文理大学 中筋委員)

地元企業においては、大学の研究力や教育力の支援を受けたいとの考えがあっても、どのようにアプローチすればよいか分からないということ聞いたことがある。マッチングが難しい原因の一つではないか。

(香川大学・富永産学連携・知的財産センター長)

マッチングのアプローチには、シーズオリエンテッド型とニーズオリエンテッド型の 2 通りの方法がある。ニーズオリエンテッド型の場合、相談があった地元企業を研究者に紹介しているが、研究費用などの課題があり共同研究に至るケースが 2 割程度と感じている。こういったことが、マッチングが難しい原因の一つではないか。

(香川短期大学・勘原委員)

ニーズ・シーズのマッチングについては、十分に浸透していないことも考えられるので、プラットフォームの活動を通じて理解を深めることも必要ではないか。

(幹事・徳島文理大学 中筋委員)

こういった情報交換や協議をすることで、プラットフォーム香川として力をつけることができる。今後も適切な情報があれば共有したい。

(2) 物品の共同調達

※「物品の共同調達」について、資料 5 に基づき協議した。「大学等による物品共同調達検討会」において共同調達によるスケールメリット等について検討を始めたところであり、今後も検討会や部会の中で検討を進めることとなった。

議題 3 令和 6 年度の事業計画について

※ワーキンググループを中心に検討し、第 3 回部会で整理・集約することとなった。

議題 4 その他

- (1) 入学願書の性別欄について、廃止または扱いを検討しているなどの情報提供について、香川短期大学から依頼があった。各校で確認の上、幹事が取りまとめ部会内で情報共有することとなった。
- (2) 香川県高等学校 P T A 連合会と連携して開催する「県内大学・短大合同進学説明会」を本年 12 月 9 日に開催する。令和 6 年度の計画立案に当たり、10 月、11 月の土・日曜日の各校行事予定を後日調査したい旨、高松大学から依頼があった。

以上